研修視察の意見・感想

氏名	定方英一
委員会	建設水道委員会
視察年月日	平成 29 年 7 月 4 日（火）～6 日（木）
視察先	広島市・山口県山陽小野田市・山口県宇部市

広島市＊基町住宅地区活性化計画について

1：はじめに

広島市は、人口 120 万人の政令指定都市であり、世界史上初めて原子爆弾で爆撃された都市として、世界的に知名度が高い市であります。それ故に、「国際平和文化都市」としても一定の影響力を持っており、広島市長の発案で創設された「平和市長会議」には 150 を超える国から 4600 以上の自治体が加盟しており、第二次世界大戦以前には「軍事都市」であった歴史とは対照的であります。

2：概要

1 計画策定の目的

基町住宅地区では、建物の老朽化のみならず、少子高齢化に伴う地域コミュニティの活力低下、空き店舗の増加に伴う商業の停滞や外国人居住者との交流の

難しさ・制約などの問題が顕在化しています。
また、地元において活性化の機運も高まっており、これらの問題に起因する種々の課題に対応し当地区の活性化を図るため、平成23年度から、地区住民と協議するなど検討を始めました。
平成24年度は、地区の現状や課題の抽出、活性化の目標や活性化策などについて、 地区住民代表者や学識経験者等で構成する「基町住宅地区活性化検討会」を設置して検討を重ね、地区住民の意見を聴きながら、基町地区活性化計画（案）を作成しました。
広島市では、この基町地区活性化計画（案）を基町地区活性化計画として取りまとめ、これを基に地区住民等と協働して地区の活性化に取組むこととしています。

２地区の主要な問題点・留意点

■高齢化

○ 広島市において突出した高齢化率（平成22 年：40.６％）となっている。

○ 自治会の担い手の高齢化等に伴い、地域コミュニティの活力の低下（行事の減少、参加者の減少）が懸念される。

○ 高齢者の孤立死の増加の恐れが、より顕在化している状況である。

○ 災害時要援護者が増加するとともに、避難支援者等の確保が難しくなっている（高齢者が高齢者を支える状況）。

■要介護者等の増加

○ 多くの要支援・要介護認定者が居住している（平成24 年度：約600 人）。

○ 地区内における通所サービス施設は未設置であり、地区外の様々な施設に通って通所サービスを受けている。

■少子化

○ 高齢化と合わせて、少子化が進んでいる。（基町小学校各年度５月１日の児童数 平成18 年度：１７７人→平成２２年度：１２１人）

○ 子どもの減少に伴い、子ども会活動などが停滞している。

○ 地域コミュニティの活力にも影響している。

※ 多家族世帯に対応した住宅供給を進めている（２戸１化等住戸改善を実施中）。

■外国人等との交流・共存の制約

○ 外国人等の居住者が増加しており、日本語の習得が十分でなく、日本の習慣に馴染めない外国人等との交流の難しさ・制約が指摘されている。（平成２２年外国人比率：１７．５％）

■商業の停滞

○ 市営店舗における営業の不振、事業主の高齢化等による経営の困難化、空き店舗及びシャッターを閉めた店舗の増加（空家率：２５．４％ 平成２４年４月１日）など、地区の商業が停滞した状況にある。

○ 施設や設備の老朽化、顧客の減少、イメージ低下などが指摘される。

■団地共有空間等の活用の余地

○ あまり利用されていない広場や緑地等が存在する。

○ 歩行者ネットワークのわかりにくさ、段差などの障壁の存在（歩行者動線のバリアフリー化の必要）が指摘されている。

3活性化策の推進に向けた体制の充実・強化と運営

【地元（住民・地域）として】

① 全体及び2つの組織の定期的な会合と連絡調整

○ 基町住宅地区全体で活性化を推進する組織において、定期的な会合を持、コミュニティ及び商店街等に関する情報の共有化と連携に努めるとともに、全体的な取組の方針決定などを行う。

○ 活性化策の具体化に関しては、全体及び2つの組織において、より開催密度を高めて会合を開くこととする。

② 気軽に参加、語り合えるサロン的な場の確保

○ コミュニティ及び商店街等の組織においては、地区住民等が自由、気軽にまちづくりなどについて意見を述べたり、語り合ったりできるサロン的な場の確保に努める。

③ 地域の人材の把握・活用、担い手の発見

○ 地区内の人材の把握に努めながら、住民等への活性化に関する情報の提供や相談・意見交換を行い、活性化策の担い手、協力者になってもらうよう努める。

④ 担い手などへの支援

○ 人やもの・場所、情報、資金などに関する支援制度などの情報を把握するとともに、必要に応じて、その活用が可能となるように取り組む。

⑤ 地区外の団体・人とのつながりづくり、基町応援団づくり

○ 地区外の団体、大学、学識経験者・専門家、基町に関心のある人々などによる基町応援団の構築に努める。

⑥「できること」の実現と効果及び波及効果の確保

○ 実現性と効果が期待できる活性化策を抽出し、実行委員会等を立ち上げるなどして、具体化に向けて取り組む。

○ その経験や成果など生かしながら、次の活性化策へと進んでいく。

⑦ 事業組織の検討

○ 地域貢献を軸とした事業の視点（コミュニティビジネス）で、配達（食事、食材・日用品、新聞、灯油、宅配便など）及びそれに合わせた見守り、災害時の支援などを行う事業組織づくりが考えられる。

○ こうした事業組織については、地区住民や市営店舗利用者、地区外の賛同者などからの出資が考えられる。

○ 担い手としては、高齢者（生きがい活動・就労）をはじめとした地区住民及び学生などが想定でき、内容によって無償及び有償ボランティアを検討する。

⑧ 情報の提供（発信）と共有化

○ 活性化策などに関する情報をわかりやすく提供し、その共有化を図る。
○ その方策としては、連合自治会等の会合での情報提供、かわら版などを作成し掲示・配布すること、口コミでの情報の広がりを図ること、マスコミの活用、ホームページでの情報の受発信などがあり、一歩一歩、具体化に向けて取り組む。

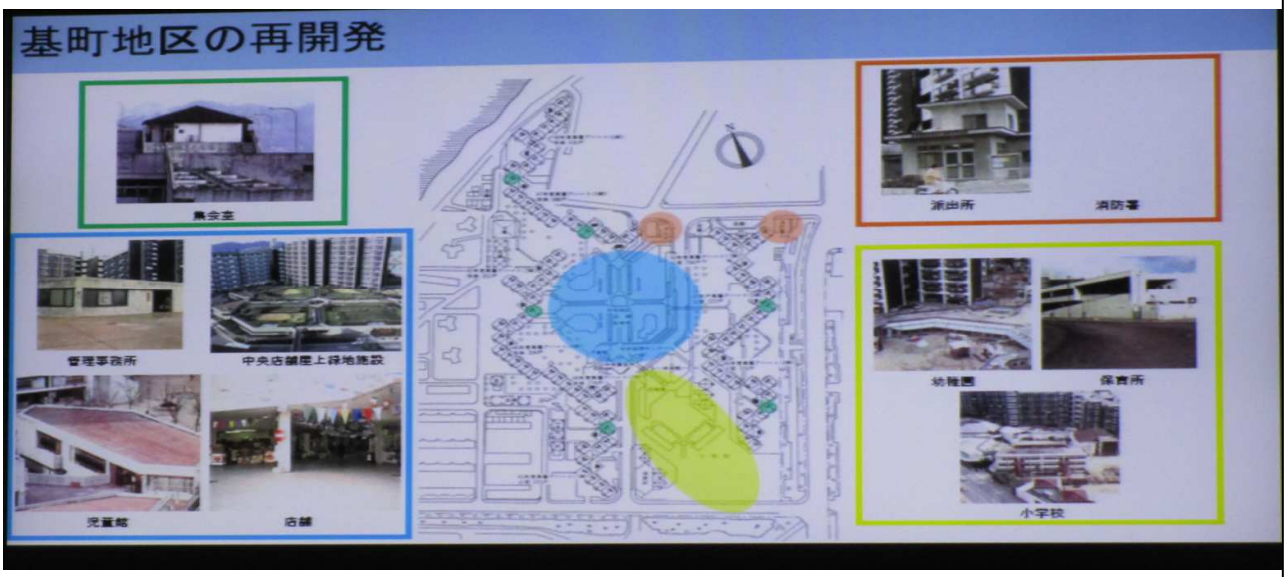
＊広島市として

① 地域再生計画の認定取得
○ 高齢者や学生向けルームシェアなど住宅の使用目的と異なる使い方をするため、国の目的外使用の弾力的な取り扱いを受けることができる地域再生計画の認定を目指す。
② 組織横断的な基町活性化に向けた取組（行政としてのパッケージ・プラン）
○ 地域再生計画の認定の有無にかかわらず、関係する部署の連携のもとに、パッケージ・プランの視点を持ちながら、基町活性化に向けた取組を組織横断的かつ総合的に進める。
○ 地域再生計画が認定された場合は、地域再生計画に基づく取組の具体化を図る。
③ 住民・地域との連携と活性化支援
○ 地区住民や関係団体等との連携を図るとともに、活性化に向けた取組の支援に努める。
○ 地区住民・地域活動団体等との協働の取組等の具体化に努める。

3：まとめ

広島と聞くと直ぐに原爆を思い浮かべます。
昭和20年8月6日午前8時15分アメリカ軍が広島市に対し世界で初めて核兵器「リトルボーイ」を実戦使用した出来事であります。当時の広島市人口35万人のその半分近くの14万人が死亡しました。
そして今回の視察先である広島市中区基町。戦後まもなくバラックの不法住宅が建ち始めました。当初は、被爆前から住んでいた住民のみでしたが、他地区の再開発などによる立ち退きで基町周辺に集結し、昭和35年頃には900軒の不法建築が建ちました。そのような経緯で原爆スラムと呼ばれる住宅密集地、基町不良住宅街が誕生しました。頻繁に火災が発生し、路地が細くて消防車が入りにくいことにより、大火事に発展しやすい地域でした。
そんな経緯がある基町です。広島の、ど真ん中にあります。戦後70年過ぎた今でも、その後遺症は残っています。
基町の外観だけを見れば、一等地です。しかしその中に暮らす人たちが協力して「まちづくり」をしなければなりません。今後に期待したいです。

基町地区の再開発
基町高層住宅建設中(昭和45年11月)
昭和44年(1969年)から10年カ


基町地区の再開発
集会室
管理事務所
中央店舗屋上緑地施設
児童館
店舗
派出所
消防署
幼稚園
保育所
小学校

山陽小野田市＊水道事業総合計画・水道事業アセットマネジメントについて

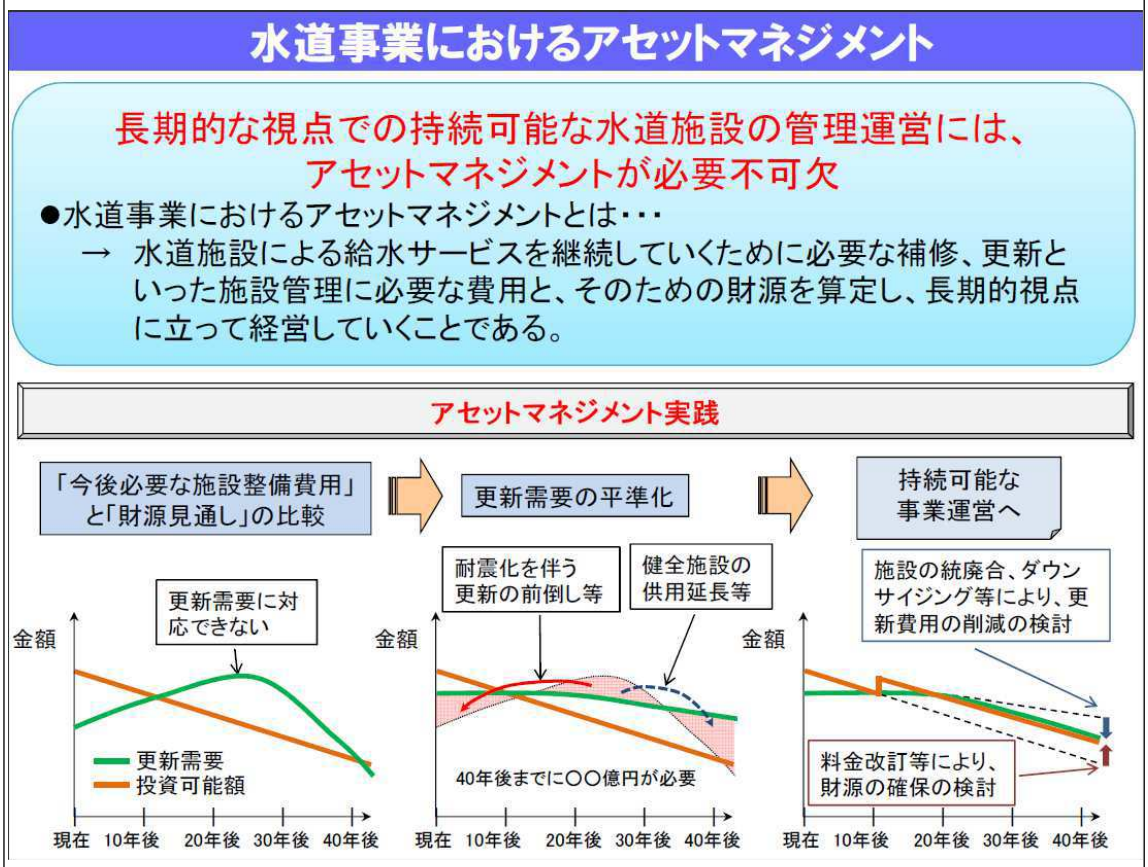
1：はじめに

平成１７年小野田市と山陽町が合併し、６万５千人の山陽小野田市が誕生しました。
全てが漢字による５文字の市名は現在日本唯一であります。
山口県の南西部に位置し、南北に長く瀬戸内海側に開けた扇状の市域で、明治期に日本初の民間セメント会社が設立されるなど、古くから工業都市として発展してきました。
伊勢崎市とも全国に５場しかないオートレース場繋がりですが
今回初めて伺いました。

2:概要

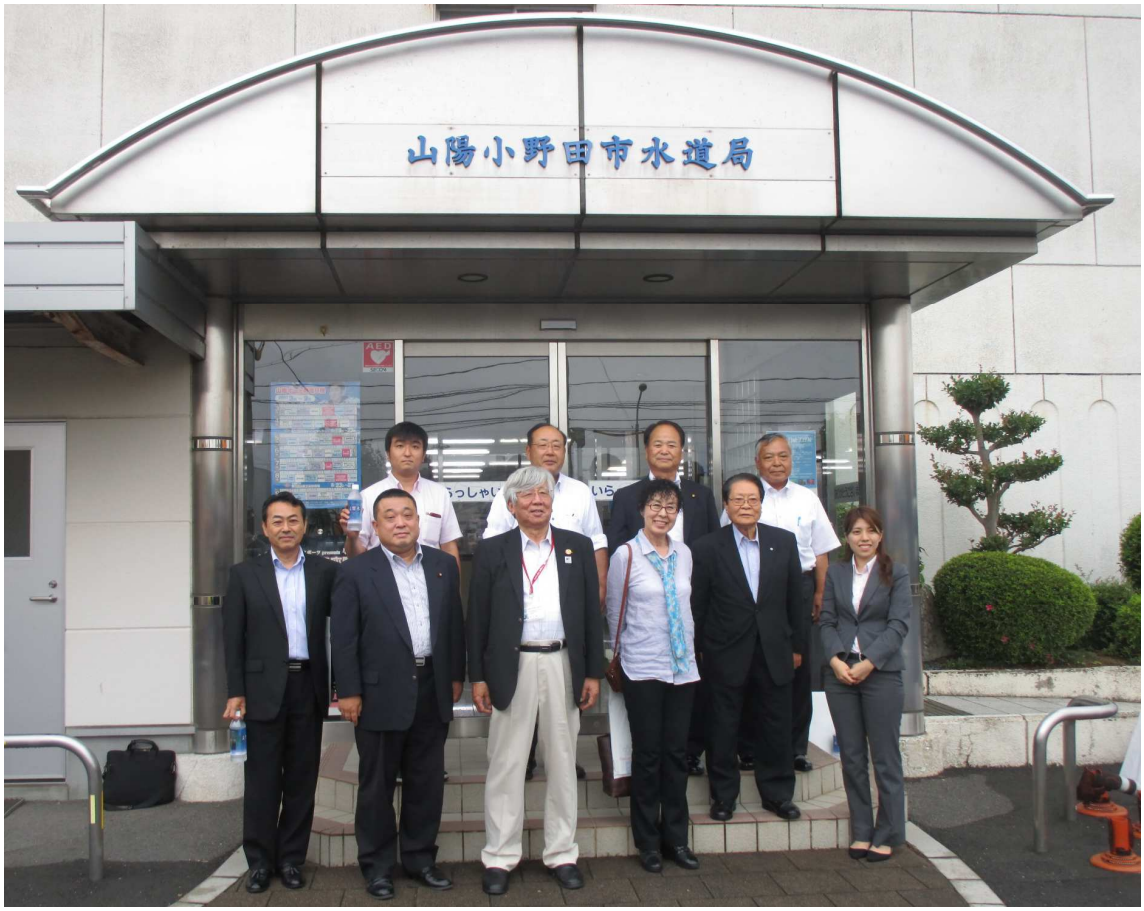
平成17 年3 月22 日に小野田市と山陽町が合併して山陽小野田市が誕生し、それに伴いさらなる飛躍を目指して第一次山陽小野田市総合計画を策定して、新たなまちづくりを進めることとなりました。
また、平成16 年6 月に厚生労働省から21 世紀の初頭において、水道の将来像についての共通認識を明示した「水道ビジョン」が発表されたところです（平成20 年7 月改訂）。
平成17 年10 月には、厚生労働省から「地域水道ビジョン作成の手引き」が通知され、市町村単位での水道ビジョン作成の取り組みをすすめることとなりました。
市民生活及び都市活動の基盤となる水道水を供給し続けるためには、適切かつ効率的な事業経営の観点から、長期的な水道事業のあり方を定め、今後より一層の経営基盤の強化に取り組む必要があります。
このような背景から、本計画は山陽小野田市総合計画の一端を担う地域水道ビジョンとして、「うるおいのある快適なまちづくり」を目指し、その実現する施策等を明らかにして、市民から信頼される水道事業の構築のための計画的な事業経営の指針とするものです。
アセットマネジメント（資産管理）の効果として。
水道施設全体の更新需要を把握し、更新投資の平準化が可能となる

■ 計画的な更新投資ができる
■ 水道施設全体のライフサイクルコストの減少を検討できる
■ 信頼性の高い水道事業の運営を達成することができるであります。
将来世代に、安心・安全で安定的な水道事業を健全な形で引継ぐことができるとなります。



3：まとめ

山陽小野田市においては、水道事業の管理者を民間公募で決めました。行き会ってみてすぐに、ただ者ではないと直感しました。
地方公営企業法によると管理者の選任については第7条の2に「管理者は、地方公営企業の経営に関し識見を有する者のうちから、 地方公共団体の長が任命する。」とあります。水道事業管理者の選任については議会の権限の及ぶところではなく地方公共団体の長の責任において選任されます。公営企業の経営の基本原則である、常に企業の経済性を発揮するとともに、 その本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されることが期待されます。まさにうってつけの管理者です。伊勢崎市においても過去に管理者を置くことが検討されましたが実現に至っておりません。今後益々複雑多岐になる公営企業です。やはり専門の人を配置して、業務にあたる、そんな思いが今回の視察を経験して感じました。


山陽小野田市水道局

宇部市＊ときわ公園活性化基本計画について

１：はじめに

宇部市は、県西南部、瀬戸内海に面する県内有数の工業都市であります。明治期以降の石炭産業の隆盛により、1921 年（大正 10 年）、村から一気に市になりました。現在県内では下関市、山口市に次ぎ３番目となる 17 万人の人口を擁します。
戦後、素材供給型化学工業を中心とする臨海工業都市へと変貌。その過程で生じた公害や環境問題を産官学民の四者が一体となる「宇部方式」により克服し、現在は環境共生都市として知られております。
市民の声より生まれた「街を彫刻で飾る運動」から野外彫刻展が１９６１年より始まり、まち全体が彫刻美術館となっています。

２：概要

常盤公園は、「日本の都市公園100 選」「桜の名所100 選」「美しい日本の歩きたくなるみち500 選」にも選ばれた緑と花と彫刻に彩られた総合公園です。広さ約189haの広大な敷地に、春には桜や色とりどりのつつじ、初夏にはしょうぶやあじさい、秋には菊が彩りを添え、湖では、優雅な白鳥やペリカンたちの愛らしい姿がみられ、また、花づくりなどでは、他都市に先駆け、障害者の働く場づくりにも取り組んでいます。
さらに、昭和36 年（1961 年）以来隔年で開催される「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」のメイン会場となる彫刻野外展示場を中心に彫刻が展示されており、彫刻と植物の融合したときわミュージアム、北部のスポーツ広場、遊園地や動物園も有し、市民の憩いの場、本市の貴重な観光資源として、多くの方々に利用されています。
しかし、近年、来園者が減少傾向にあったことから、効果的な活性化策の取組と効率的な管理運営が求められているところです。
こうした中、宇部市の宝である常盤公園を、利用者にとって魅力ある公園として継承し、新たな魅力を創りだし、賑わいの創出を図るために、「常盤公園活性化基本計画」を策定しました。

この常盤公園活性化基本計画は、「環境・芸術・スポーツ・福祉」の融合した先進的なモデル公園を目指して、広大な常盤公園を「にぎわい・観光エリア」「憩いのエリア」に分け、多様な資源や人が連携しながら、新たな魅力を創りだすことにしております。
今後は、この常盤公園活性化基本計画に基づき、様々な施策を展開し、市制100 周年（2021年）に向け、人の心がときめく公園づくりを進め、本市の活性化を図る計画です。

3：まとめ

宇部市は 2021 年には、市政 100 周年です。今回の視察先常盤公園とその中にある緑と花と彫刻の博物館（ときわミュージアム）の野外彫刻展示場は、箱根の「箱根 彫刻の森美術館」と並んで、野外の彫刻美術館としては国内の双璧をなしています。国内屈指の彫刻ビエンナーレである UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）の会場としても全国的にその名が知られており、同展は若手彫刻家の登竜門となっております。

また、ときわ公園は面積約 100ha におよぶ常盤湖を中心に広がる緑と花と彫刻に彩られた総合公園で、山口県初の「登録記念物（名勝地関係）」に登録されています。

広大な園内は四季折々の自然美に彩られ「日本の都市公園 100 選」や「さくら名所100選」・「美しい日本の歩きたくなるみち500選」、しょうぶ苑が「池坊花逍遥 100 選」にも選ばれているほか、NHK が募集した「21 世紀に残したい日本の風景」で、総合公園としては全国で第 1 位にランキングされました。そのような常盤公園を視察でき伊勢崎にもある100選の華蔵寺公園初め3大都市公園（波志江・市民の森）等の活用を考慮に公園の在り方を精査し、発展させなくてはと思いました。